

院内がん登録用相対生存率計算ソフトの開発と提供

味木 和喜子* 津熊 秀明

1. はじめに

厚生労働省がん克服戦略「院内がん登録」研究班（主任研究者：津熊秀明）は、院内がん登録用相対生存率計算ソフトを開発し、提供を開始した。

2. 相対生存率とは

がん治療を評価するために、がん以外による死亡の影響を調整した生存率が必要である。相対生存率は、その方法の一つであり、地域がん登録や院内がん登録で用いられる。国立がんセンターから毎年、提供される「コホート生命表」を用いて、患者の診断年、診断時年齢、および性別の分布から期待生存率を計算し、患者の実際の生存率（実測生存率）を期待生存率で除した値が相対生存率である。

3. 相対生存率計算ソフトの動作環境

本ソフトは、Windows 98、2000、XP の Microsoft ACCESS 2000 で開発された。ACCESS 2000 がない場合でも、本ソフトのインストール CD-ROM に添付される「ACCESS 2000 ランタイムアプリケーション」をインストールすれば、ソフトを利用することができる。

4. 必要なデータファイル

表 1 に、解析用データファイルの項目と分類方法を示した。この形式にしたがって、1 行目に項目名、2 行目以降にデータを含むカンマ区切りのテキストファイルを準備する。また、最

新のコホート生命表を、国立がんセンターのホームページからダウンロードする。

5. メインメニュー

メインメニューは次の 5 項目である：(1) データ取込、(2) データ修正、(3) 生存率計算、(4) コホート生命表取込、(5) マスタメンテナンス。ここでは、データ取込から結果出力までの流れを示す。

6. データ取込

まず、データファイルをシステムに取り込む。その際、生存率計測の起点日として、初診日、診断日、入院日、治療開始日の中から 1 つを選ぶ。

データの読み込み時に、エラーチェックが実行される。起点日などの必須項目が空白のデータや、存在しないコードが入ったデータは読み飛ばされ、エラーリストに出力される。データ取込が完了すると、元ファイルの全件数、取込成功件数、エラー件数が表示される。

7. 条件設定

生存率計算を計算する前に、(1) 観察終了日、(2) 抽出条件、および(3) 集約条件を設定する。

観察終了日として、例えば 5 年生存率を計算する場合は 5 年と設定する。抽出条件を設定すると、その条件を全て満たすデータから、生存率が計算される。集約条件は 2 条件まで設定可能で、例えば部位別、進行度別に生存率を計算

*大阪府立成人病センター 調査部

〒537-8511 大阪市東成区中道 1-3-3

することができる。

この3項目を設定すると、抽出された対象者について、設定された観察終了日に基づく生存者数、死亡者数、生死不詳者数が、生存率解析の前に表示される。

8. 生存率計算

実測生存率は、Kaplan-Meier 法と生命保険数理法の2方法により計算される。期待生存率の計算方法は、「地域がん登録」研究班で示された方法に準拠しており、相対生存率とその標準誤差が表示される。

結果ファイルの出力は、EXCEL形式とカンマ区切りのテキスト形式に対応している。また、

EXCELが利用できるパソコンでは、グラフを表示・保存することもできる。

9. マスタメンテナンス

抽出・集約条件に用いる部位の組合せや、一部の項目のコードと分類方法を、施設の目的に応じて追加・変更することができる。

10. ソフトの申込方法

ソフトとマニュアル一式は、CD-ROMで提供される。利用を希望される方は、返信用ラベルと280円切手を、大阪府立成人病センター調査部 津熊秀明（〒537-8511 大阪市東成区中道1-3-3）まで送付のこと。